

第2回みやぎおやじサミット 「おやじたちよ、地域へ！」

報告書



みやぎおやじサミット実行委員会（お父さんたちのネットワーク）
2018年11月10日

第2回みやぎおやじサミット 「おやじたちよ、地域へ！」

家庭教育をはじめ、子どもたちの教育環境や地域の安全には、地域の大人たちの自らのつながりが必要とされております。

昨年私たちは、塩竈市浦田野々島で第1回のみやぎおやじサミットを開催し、天候こそ危ぶまれたものの、野々島の方々の大いなる協力を得て成功することができました。

本年度も、親の子育て及び家庭教育への主体的な参画を促し、社会全体で子育てをしようとする機運の醸成を図るため、ふたたび宮城県のおやじたちが集まって開催されました。

開催期日 2018年 10月20日(土)

場所 宮城県松島自然の家
屋外キャンプサイトコテージ・炊事場ほか
東松島市宮戸字西大浜田1
TEL 0225-90-4323

主催 みやぎおやじサミット実行委員会(お父さんたちのネットワーク)

共催 宮城県教育委員会

後援 仙台市教育委員会／東松島市教育委員会生涯学習課

 河北新報社  ミヤギテレビ  TBC 東北放送  仙台放送
 KHB 東日本放送  エフエム仙台  エフエムたいはく

協賛 ホットハウス 建美工業

延べ参加人数 38名(学生ボランティア6名を含む)

参加費 (昼食、ミニコンサート、材料費を含む)
大人 1500円
子ども 1000円 (未就学児 500円)

【ごあいさつ】

新しい時代への飛躍のために

実行委員長 牧田和政

第一回みやぎおやじサミットから1年が経ちました。宮城のおやじたちは、「家庭」で、「職場」で、「地域」で、懸命に奮闘してきました。

今年の夏を振り返ると、7月の「西日本豪雨」、9月の「北海道胆振東部地震」と、日本列島は多くの災害に見舞われ、甚大な被害が出ました。おやじたちの頑張る姿と、地域防災は切っても切れない関係があると考えて、今年のみやぎおやじサミットは「地域」をテーマにしました。



お母さん同士の繋がりがきっかけで、「地域」に顔を出す事ができるようになり、新たな居場所を見つけたおやじもいるでしょう。

また、「地域」へ飛び出したおやじが水を得た魚の様に、自分の背中を見せつつ、子どもたちに生きる力を示してきたおやじもいます。

更に、冒頭にも触れましたが「防災」に関しては、2015年3月に宮城県仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」で、2030年までの国際的な防災の指針である「仙台防災枠組」が採択されたのを発端に、宮城から日本全体へ、そして、国際社会において大きな関心を集めています。

今回のサミットは平成最後の、みやぎおやじサミットです。昭和に生まれ、平成を駆け抜けてきたおやじが、新しい時代に向かって飛躍するために熱く語り合ひましょう。

実行委員会

実行委員長	牧田和政	(上杉チャンネット)
実行委員	石垣政裕	(事務局・第一分科会チューター： お父さんたちのネットワーク世話人 宮城県家庭教育支援チーム協議委員)
	坂口清敏	(午後の部企画・第三分科会チューター： 上杉チャンネット、宮城県社会教育委員 東北大学大学院環境科学研究科准教授)
	霜山 清	(広報:富沢・長町地区おやじの会 地域 ネットワーク推進委員会 代表)
	鈴木浩志	(広報:寺岡おやじの会)
	工藤賢司	(第二分科会チューター:長命ヶ丘おやじの会、 ファザーリング・ジャパン東北)
	佐々木健治	(受付:八乙女おやじの会)
	千葉政徳	(昼食:踊る食育ペットボトルピザ マイスター)
	元木耕一郎	(広報:利府町立利府中学校PTA副会長)

【プログラム】

1. オープニング 9:30-10:30 ティーナ・カリーナさん ミニコンサート



オープニングのティーナ・カリーナさんのコンサートは、参加者全員がすぐに昭和歌謡の世界に引き込まれ、大盛り上がりでした。まさに「みやぎおやじサミット」にふさわしいコンサートとなりました。

ティーナ・カリーナ コンサート 八乙女おやじの会 佐々木健治

昭和歌謡と聞いて、都はるみさんのような歌手かと思いを巡らしました。

コンサートが始まって、ティーナ・カリーナさんの歌を実際に聴いてみると本格的な歌謡曲もあれば竹内まりあとかニューミュージックもあって、様なカテゴリの歌が披露されました。

彼女の歌は、「さすがプロ」と思わせる豊かな歌唱力を背景に、1曲目の「魅せられて」ではジュディ・オングのお馴染みの演出で、これから繰り広げられる楽しいコンサートを予感させられました。

ティーナ・カリーナさんは話が面白く笑いを誘うだけでなく、聴衆ののせ方も上手です。それもそのはず、彼女は大阪の生まれで若手の芸人にも引けを取らないほど 会場には笑いがあふれていました。

このように ティーナ・カリーナさんのコンサートは第2回オヤジサミットのスタートを飾るにふさわしいエンターテイメントで、参加者がひとつになるのに大きく貢献したと思います。



2. 分科会

10:30-12:00

オープニングの後全体の開会式が行われ、坂口清敏による実行委員長(代理)挨拶、参加者の紹介が行われました。

分科会は三つの班に分かれてグループ毎のテーマでおこなわれました。

①第一分科会 場所:キャンプファイアー広場 「母親がキッカケを作り、地域おやじが生まれる」

親父同士の交流は、母親同士の交流がきっかけだという。地域活動におやじたちはどうしたら参加してくるのだろうか。参加者それぞれの経験やアイデアを出し合い、地域活動を更に活発にするための意見交流にしたいと思いました。

報告者 チューター 石垣政裕

第一分科会は、おやじ2名、家庭教育支援チームの方々5名、大学生3名の10名が集まり、キャンプファイアー場に椅子を持ち込み、熱心に討論しました。

地域活動にお父さんの参加を増やすための方法について考えました。

各地域でお母さん方など、比較的女性は友だちを作りやすく、反対に男性は友だちが少ないことは以前から言われていました。とくに働き盛りのお父さん、パパたちは授業参観日なども含めて学校に足を踏み入れることなども少なかったと思います。チューターの石垣などは、実に授業参観後のクラスの集まりで紅一点ならぬ『黒一点』だった気がします。

父親同士の交流が始まるのは、母親同志の交流の機会がキッカケだったというあるアンケート調査結果がありました。本当にそうなのでしょうか。自分たちの身の回りではどうだろうかというところから、話が始まりました。



■最近のパパたちはずいぶん、保育園や幼稚園、学校に足を運ぶようになった。

■場所によって、父親や男性が地域の活動に積極的に出てくるところもある。健全育成会などが、その役割を果たしている。

■学生の方の中にはボランティアで小学校に行ったときに「おやじの会」の活動に参加したことがあった。

これまで、父親をはじめとして男性の地域の活動は「地域のために頑張る」方が多かったように思えます。分科会の話に出てきた健全育成会はこれまでもその役割を果たしてきました。「地域に足を踏み入れる、地域で楽しむ」人たちが更に増えるためには、どうしたらいいのでしょうか。

家庭における男女の家事のシェアや働き方の変化を支えるためには、地域での繋がりも必要です。では、どうしたら今より活動してくれる父親たちの数が増えるようになるかと言う話になりました。

- SNSを使って活動に誘い込む。
- 「楽しかったよ」声かけが必要。

SNSで呼びかけるのは大変便利ですが、それだけではなかなか地域での誘いには結びついていかないものです。関心があれば、そして、ネットをつなげて調べるところまで行けば、SNSはその機能を遺憾なく発揮できるでしょう。しかし、活動に参加するまでには、「あの人が言っているのだから」と人と人との信頼感があって始めて入り口に向かうのではないだろうかという話にもなりました。

私たちは、多様な手段を使って、父親たちの活動をアピールしていかなければいけないし、常日頃の地域活動で顔が見える形になった人たちが、他の人にしっかりと声かけをしていく必要もあるだろうということになりました。

②第二分科会 野外炊飯棟B横 「おやじの背中が地域を救う」

今回のテーマ、「おやじの背中が地域を救う」ですが、実際、おやじの背中では何が変わるか、地域を救えるのか、どんなおやじの背中が救うのか、といった事をいくつかの視点から考えてみます。とはいえ、大げさなことだったり、難しいことではありません。優しく、誰でもできるようなことにポイントをおいて話すことにしました。

報告者 チューター 工藤賢司

■はじめに

本分科会には、男性3名(著者含)、家庭教育支援チームから3名の女性、大学生の3名の計9名の参加がありました。簡単な自己紹介とアイスブレイクを行って、和気あいあいと話ができる雰囲気ができ、テーマの『おやじの背中が地域を救う』へと進みました

■そもそも『おやじの背中』とは？

最初におやじの背中のイメージを共有しました。家ではだらしないけどしっかり働いていた。あまり話をしない父だったが釣りを教えてもらった時のことをよく覚えていると言った話から、昔のおやじは威厳があったが、今は価値が下がっているという話もあ



りました。一方では、教育が変わったことでおやじの背中も変わってきているので、時代に合わせた価値があるという話に納得する方が大半でした。

■今のおやじの背中とは？

男性から、子どもがどんな背中が見たいのか考えているという話がありました。実際に大学生へ聞いてみると、良いと思うところは真似て、悪いと思ったところは反面教師として、将来子どもを持った時に生かしたいということでした。そういった話から、無理に良いところを見せようとせず、生き生きとした姿を見せることが大切で、悩んでいる姿も見せられるのが必要ということには皆が感心させられていました。

仕事も一生懸命で、家庭・地域活動も一生懸命に励んでいる姿、精一杯、悩み考えている姿を見せることで、子どもが学んでいくということが成長に良い影響を持っているとまとめました。

女性から、子どもが小さい時に夫を亡くしたのでおやじの背中を子どもに見せられていたか疑問があるという話がありました。小さい時でも子どもは父親のことを見ているし、母親のこともよく見ている。また地域活動する男性との関わりで、おやじの背中を見せることもできるという話が出ていました。

■おやじの背中が地域を救うとは？

地域活動する男性が増えず高齢化する一方で悩んでいるという話からスタートしました。男性から、地域活動に参加するタイミングがよくわからず参加できないという意見があった。地域で活動するおやじを増やすためには、参加できるイベントがあること。イベントでは役割があること。具体的に知ってもらうようにすることなど男性が参加しやすくする工夫が必要ということでした。女性からは、家庭からちょっと地域活動へ後押しすること、ちょっと頼ってみることが参加を促すことになると、家庭での工夫も必要ということも出ました。

実際に地域活動に出ている父親からは、活動することで子どもが地域活動に興味を持つようになったという話に、長期的に考えるとおやじの地域活動が地域を若返らせるきっかけになるという話になりました。

話がまとまってきて、『おやじの背中が地域を救う』とは地域活動に若い人も参加するようにすることで活性化する。地域を救う＝活性化ということで学生の理解も得ることができました。

■おわりに

地域活動の悩みは60歳以下の参加が少ないこと。どこの地域でも具体的な解決方法は見いだせていないということが皆さんの意見を聞いてわかりました。ただし解決方法の糸口としておやじが地域活動へ参加することが必要になっているということがわかった。地域に根ざしたおやじの会の力はこれからの地域活動で重要になってくると考えさせられる分科会となりました。

③第三分科会 場所:コテージ北側テントサイト 「地域防災はおやじがけん引する」

「防災」という言葉を耳にする機会が増えていきます。では、そもそも「防災」とは何なのでしょう。か？「防災」を実現するためには何が必要なのでしょうか？何をすれば良いのでしょうか？そして、オヤジは「真の防災」ために何をすべきなのか？何ができるのか？この分科会では「防災」をテーマにその根本から考えてみました。

報告者 チューター 坂口清敏

■はじめに

本分科会には、おやじ2名(著者含)、家庭教育支援チームから6名の女性、大学生の男女各1名の計10名の参加がありました。テーマに「おやじ」の文言があるにもかかわらず、いわゆる「おやじ」は1/5でしたので、「おやじ」を「おとな」に読み替えて議論を進めることにしました。

本分科会で目指していたのは、「真の地域防災とは何か?」、「真の地域防災を実現するためには何をすれば良いのか?おやじ(大人)は何ができるのか?」を参加者全員で確認し、共有することでした。

そこでまず、「そもそも災害とは?」について考え、「防災」を展望してみることになりました。



■災害とは?

「災害」とは何でしょうか。地震、津波、台風、大雨、火事などがイメージされるかと思います。ここに挙げた5つの事象は、大きく2つのグループに分けることができます。すなわち「地震、津波、台風、大雨」と「火事」の2つです。前者は自然現象であり、後者は人為的事象です(自然山火事などもありますが、温暖化が原因と考えられるなど、少なからず人為的要因を想像させます)。これらの中で、人の力で防ぐ(止める)ことのできるものは後者の「火事」だけです。人為的事象なので当然です。したがって「火事防災」に関しては、多くの人で共通の理解が得られそうです。では、前者のグループはどうでしょうか。前者は自然現象なので人の力ではどうすることもできませんし、そもそも、それ自体は災害ではありません。これらの自然現象は地球が活着している証拠で、もし仮に、これらの無い世界が実現できた時、地球は滅びていることになります。しかし、我々は、往

々にしてこれら自然現象を「災害」と決めつけているようです。なぜ、災害としてしまうのでしょうか。それは、これらの自然現象で人(人の営み)が被害を受けるからにはほかなりません。したがって、これら自然現象に起因する「人(の営み)への災害」を防ぐことが「防災」ということになりそうです。津波を例に考えてみましょう。津波に起因する災害を防ぐために防潮堤が作られています。ではこの防潮堤は津波に起因する災害を防いでくれるのでしょうか？もちろん、防いでくれるとは思いますが、“そうでない場合もあるのでは”とも十分に想像できます。そもそも防潮堤は、津波に起因する災害から人(の営み)を守るための「時間稼ぎ」をしてくれるだけに過ぎません。だからと言って役立たずでもありません。防潮堤が稼いでくれる「時間」がとても大切で、この時間を有効に使うことが自然現象発生後の「防災」につながるのではないのでしょうか。他の自然現象に関しても、限られた「時間」を有効に使うということが、自然現象発生後の「防災」にとって重要な意味を持ちそうです。

■防災とは？

「防災」とは何だと思うか、率直に意見を聞いてみました。いろいろなご意見は出ましたが、要約すれば「災害の発生する前に何かを(物、心構え)備えること」と集約できました。では、「防災訓練」とは？という問に変えると、参加者の実体験から「災害が発生した後のために何かを(物、心構え)備えること」という事になりました。「訓練」という文字が付くだけで、災害の前と後という時系列ができてしまいます。「物」の備えであれば、災害の前後であっても同じ意味を持ちそうですが、「心構え」の備えということになると、災害の前後でその意味が異なってきます。「防災」は災害を防ぐことですから、時系列では「災害の前」での何かを指すことになるかと思います。

では、地域で行なわれている「防災訓練」は本当に「防災」のための訓練になっているのでしょうか？この問に関して、参加者から実体験に基づいたお話を聴くことができました。皆さんのお話からは、①防災訓練はやった方がよい。②防災訓練は画一的な訓練ではなく、地域の特徴に即した訓練でなければならない。③発災時の行動訓練が、机上の空論のようで実感の伴わないものになっている。など、具体的なお話を聴くことができました。また、そもそも、④地域防災訓練自体が無いので不安に感じることもある。との意見もありました。どうやら、「防災訓練」はその意味よりも“やる”、“やった”という方向で自己完結していくようで、場合によっては形骸化している印象です。しかも、災害の後をターゲットにしたものが殆どのものでした(もちろん、災害後を想定した訓練は重要で、否定するものではありません)。

では、真の地域防災を実現するためには何が必要なのでしょうか？何をすれば良いのでしょうか？訓練は当然必要です。でも、形骸化した実感の伴わない防災訓練は意味を成しません。

■時間を活かす

「時間」が重要な意味を持つと述べましたが、この「時間」をどう活かせば良いのでしょうか。ここでは、この「時間」を2つに分類します。一つは自然現象が既に発生していて災害に繋がりそうな非常時にあたる時間、もう一つは、自然現象の発生していない日常時にあたる時間です。

前者の時間は限られています。防潮堤が時間稼ぎしたとしてもそんなに長い時間が確保されるわけでもありません。この限られた短い時間で成

すべき「防災」は「しなやかにかわす」ということではないでしょうか。牙をむく自然現象に対して抗うのではなく「かわす」のです。しかも「しなやかに」。すなわち、安全な場所に安全な方法で迅速に逃げるのだと思います。この行動を実践できるかできないかは、所謂「防災訓練」の成果に直結するのではないのでしょうか。これを目的とした防災訓練は既に実施されているかと思いますが、地域性（海、川、山、崖、住宅密集地）に特化した「防災」に寄与する訓練も実施可能です。

では、後者の「時間」はどうでしょう。後者の時間はたっぷりあります。このたっぷりの時間で行なう「防災」とは何でしょうか。それは、「地域コミュニティの醸成」だと思います。「防災」は一人一人の心構えではありませんが、意識を同じくする人が協力し合っこそ実現できるものだと思います。そのためには、日頃から、顔の見えるお付き合いの輪を広げておくことが重要だと思います。先の震災の時も、しっかりした地域コミュニティが形成されていた被災地の方が、発災前の「しなやかにかわす行動」も、発災後の避難所運営などもスムーズに出来ていたようです。

では、「地域コミュニティの醸成」のためにおやじ（おとな）は何をすれば良いのでしょうか。何か特別なことをしなければならないのでしょうか？そうではないと思います。例えば、既におやじの会に入って色々な行事等に協力しているのであれば、それを続けることです。そして、できるだけ多くの人と顔を合わせることです。お話のできる関係になれば、なお素晴らしいことだと思います。何かの団体に属していなくても大丈夫です。近所の人とコミュニケーションをとること、そしてこれを続けることです。いわゆる“他人”と接する機会を大切にする日常生活を10年、20年、30年と続けていくことだと思います。真の地域コミュニティは意識して「作る」ものではなくて、いつの間にかそこに「ある」ものでなければならないと思います。そのためには、このたっぷりの時間が重要な意味を持ち、たっぷりの時間が必要なのだと思います。

■おわりに

第三分科会では、異なる地域性を持った処にお住いの方々が集まって、「防災」をキーワードにその地域ならではの取り組みや課題を聴くことができました。事例紹介もあって、お互いに参考になるお話も聴くことができました。いろいろなお考えを聴くことができましたが、皆さんに共通する思いは“人の輪って大切だよね。”だったと思います。「防災」は人の為にあるものです。人の為にするものです。であれば、そこに人々の日常が垣間見えるものでなければならないはず。地域の中で、元気に、楽しく、はつらつとした生活を続けることが真の地域防災に繋がるのではないのでしょうか。



大きな竈の上に段ボールピザ竈



防災食？やっぱりピザがおいしいわ！

お昼には、レトルトのカレーに肉団子をのせ、アルファー米を、環境に配慮した容器やスプーンで試食しました。また、宮城県の備蓄防災食も試食することができました。千葉さん親子の提供する、ペットボトルピザは圧巻で、参加者の注目を一身（一皿？）に浴びていました。

踊る食育ペットボトルピザと供に

マイスター 千葉政徳

私と踊る食育ペットボトルピザ【特許取得済】(以降PBPと略)との出会いは東日本大震災後の福岡おやじサミットから…、しかしPBP分科会には参加叶わず後ろ髪をひかれる思いのなか別分科会へ。

当時PBP本山である島根県益田市『ネイチャーキッズ寺子屋』(以降NKTと略)では動画撮影を全面禁止しており参加者へは画像のみ許可(転載禁止)であるためPBPを始めるには情報はNKT公式ネットから断片的な動画を見ながら自分なりの試行錯誤で形に近づいたのは3年後、それからNKTにメールでアプローチしたりしましたがPBP体験会参加条件が正式レシピと参加者が他者への教を許される唯一の機会。更にそこから1年強、体験会に参加された皆さんからのアドバイスを受けて4年後に他者へ教えていけるレベルになりNKTへ体験会開催の許可を頂けるほどになりました。

年間でピザを300枚ほど焼いて4年間だと1,200枚以上は焼いてきたことに趣味の域を超えて家族からは変態と思われたに違いありません(笑)

現在は石巻市内外の幼稚園・保育所・小学校や障がいを抱えた方々を応援するNPO法人など様々なところからのお問合せを頂いたりして楽し

い日々であります。

私がおやじの会に在籍していたころは地区限定で子どもたちや大人への関わり合いがほとんどでした。しかしこのPBPは防災にも役立つことから地区限定から地域(広域)へと旅立つきっかけと背中を押してくれた存在であると言えます。

これからは踊る食育ペットボトルピザの楽しさや驚きと感動を体験会参加者の皆さんに与えたいと強く願い、なにより参加された方々の笑顔を見ることが出来ることは、私も楽しく嬉しくなるものですから。



教育長への説明は親子で！

3. チャレンジ・ザ・ゲーム

場所:運動場 13:30-15:00

防災食を試食し、ペットボトルピザを何種類も味わい、お腹いっぱいになったので、「腹ごなし」にはうってつけの、上杉チャネットが仕掛ける、大人も子どもも一緒に参加できる楽しいゲーム「チャレンジ・ザゲーム」が始まりました。

参加者を5班に分け競技が開始されました。

お金をかけない、しかし誰もが参加できてスリルのあるゲームが用意されていて、参加者は大声を上げて楽しみました。優勝と準優勝チームには金色に光るメダルが授与されました。



どう？決まってるかしら？



思い通りに行かないのは人生の常？



チームワークはまかせて！

チャレンジ・ザ・ゲーム 競技説明

種 目	競技方法	得点計算法	場 所
① プチ・ドラゴン (坂口, 中谷, 星)	チームの 5 人が各々投げ入れる物を 1 つ選択し (右参照), m 離れた場所から「ネットかご」目がけて投げ入れ, 入ったものに対する点数の合計を競う。投げ方は自由。パウンドして入っても OK。2 回行う。2 回目は 1 回目と違うものを選択しても良い。	シャトル: 10 点 ピンポン玉: 8 点 スポンジボール: 6 点 インディアカ: 4 点 テニスボール: 2 点 (30 点満点/1 回)	運動場
② ゴルフ盤 (坂口, 中谷, 星)	場所ごとに得点の異なるポイントを目指してグラウンドゴルフボールを打つ。ポイントに入ったら点数獲得。ポイント以外に距離に応じた得点ラインも設置。行き過ぎはマイナス。図面参照。 競技は 1 人 2 回。	ポイント 4 か所 10 点, 20 点, 30 点, 40 点 距離に応じた獲得点 0m~5m: 1 点 5m~10m: 2 点 10m~15m: 3 点 15m~20m: 5 点 20m~: マイナス 5 点	運動場
③ スリッパ飛ばし (坂口, 中谷, 星)	チーム全員が同時にスリッパを飛ばし, 各々の飛距離を計測。 競技は 2 回行う。(練習 30 秒)	各々の飛距離を点数に換算し, 合計得点とする。1m→1 点 (1m 未満は切上げ)	運動場
④ スリッパすごろく (坂口, 中谷, 星)	競技開始位置からスリッパ飛ばしを 5 人のリレーで行い, ポイント地点までスリッパを運ぶ。5 回目に入ったポイントが得点。5 回未満でどこかのポイントに入った場合は, 次にリレーする人は競技開始点から始め, 残り的人数分で到達したポイントが得点。 スリッパは各チーム 2 足。	ポイント: 直径 2m の円。 5m: 10 点 10m: 20 点 15m: 30 点 20m: 40 点	運動場
⑤ サークルリフティング (坂口, 中谷, 星)	チームで手をつないで輪を作り, キンボール (大きな風船のようなボール) を, 手をつないだままでボール・リフティングする。競技は 1 回。 (練習 30 秒)	2 分間で連続してボールリフティングできた回数×2 を得点とする。	運動場

4. 閉会式

閉会の挨拶

霜山

清 (広報: 富沢・長町地区おやじの会
地域 ネットワーク推進委員会 代表)

15:15-15:30

【当日までの会議・打合せなどの記録】

2018. 10. 19	第5回作戦会議 於：仙台市生涯学習支援センター
2018. 09. 30	松島自然の家との打合せ、実施場所の確認
2018. 09. 28	東松島市教育委員会へご挨拶とチラシ配布依頼
2018. 09. 22	第4回作戦会議 於：仙台市生涯学習支援センター
2018. 08. 31	第3回作戦会議 於：仙台市生涯学習支援センター
2018. 06. 22	第2回作戦会議
2018. 06. 02	松島自然の家下見
2018. 04. 22	第1回作戦会議

【報道関連】

2018. 10. 23	TBC東北放送ラジオ「en∞Voyage（エン・ボヤージュ）」でパーソナリティ佐々木淳吾さんから当日の様子をご紹介します。
--------------	---

【御礼】

本報告書に掲載した方々の他にも、おやしサミット開催に当たり、たくさんの皆様にご支援・ご協力を頂きました。また、おやじたちのプランに優しく対応していただいた松島自然の家のスタッフの方々にも心より感謝申し上げます。



感謝！おやじ達！！

我が社は、全国のおやじ達を応援しています！

総合解体業

有限会社 建 美 工 業

代表取締役 佐々木 磨

〒982-0804 仙台市太白区鉤取 9-2-90

☎ 080-1689-4943

✉ kenbidayo@docomo.ne.jp

PC kenbi@kra.biglobe.ne.jp

解体からリフォームまで
一社で担う安心企業

宮城県地元資本における不動産業者の

売買成約件数 **No.1**

※調査時点：平成30年3月/東京商工リサーチ調べ

住み替えて始まる

素敵生活

人と人、人と情報とが出会い、新しい暮らしの夢を創造していく。

そんな素敵生活への標となり、住人十色の願いを叶えるため

迅速かつ、確かな情報を伝えていくこと。

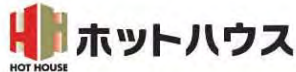
それが「ホットハウス」が向かう、夢への出発点です。



CM公開中です！



※宮城県地元資本の不動産業者①本社が宮城県に所在②親会社の所在が宮城県以外を除く③日本標準産業分類：細分類コード（6811）建物売買業および（6812）土地売買業を主要とする企業と定義。



ホットハウス

売れずにお困りの方、早く売却したい方、買替をお考えの方
不動産買い取ります!!
宮城県内及び東北～北関東

買取専用 通話無料TEL
0800-808-8880

仙台北社

宮城県仙台市青葉区本町1丁目5番31号
シエロ仙台ビル 8階 TEL / 022-215-7787

盛岡支店

岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目14番20号
シエロ盛岡ビル 2階 TEL / 019-626-1800

宇都宮支店

栃木県宇都宮市伝馬町3番3号
シエロ宇都宮 1階 TEL / 028-610-5907

www.hot-house.co.jp